

まちづくりフォーラム2015実施報告

今回は、「犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指して」をテーマに、総合福祉保健センター6階大会議室にて平成27年2月11日（祝）に開催いたしました。

当日は、高校生や大学生、市内団体や事業者並びに一般公募の方など関係者を含め約60名にご参加いただき、鎌ヶ谷警察による防犯講話や千葉大学法政経学部准教授の関谷昇さんによる基調講演、グループディスカッションを行いました。

1 防犯講話 鎌ヶ谷警察署 生活安全課長 廣瀬 周作さん



・防犯講話については、市内の犯罪発生件数は、年々減少しており、前年については、大幅に減少しました。（平成26年 1,214件 前年比-185件）

しかし、自転車盗や特殊犯罪（オレオレ詐欺等）が増加傾向にあるため、「鍵のツーロック徹底」、「合言葉を事前に決めておく」、「お金の話はまず疑う」など自己防犯に努め、被害に遭わないよう気をつけてほしいとのお話がありました。

2 基調講演 千葉大学 法政経学部 准教授 関谷 昇さん



・基調講演については、今後の市民と協働で達成していくまちづくりについて、先進的に取り組まれている自治会などを例に、非常にわかりやすく、有益な情報やご提案等を頂きました。主な内容は次のとおりです。

- ・まちづくりの基本的な考え方は、例えば、防犯については、行政、警察、防犯協会などに任せきりにするのではなく、自分たちの住んでいる地域の問題のため、「自分たちの問題」として考え、自らが行動できるようにしていかなければならない。自治体や地域のために何ができるかという視点が必要である。
- ・地域コミュニティのあり方について、市内の様々な団体との横のつながりをつくり、多様な主体が、互いに連携しながら、同じ方向を向いて活動を進めていくやり方が有効である。
- ・異質なものが相互に響き合うことを通じて、新たな発想と価値の創造を生まれる。
- ・防犯には「地域の目」が重要で、まずは地域住民が地域活動に参加してみるという姿勢が大事である。
- ・高齢者や若者など世代を超えて、ディスカッションできる機会を自治会単位で設け、若者が地域と関われる機会を作ることが重要である。
- ・身近で気軽に相談できる「小さな拠点づくり」も極めて重要で、例えば、「地域防犯情報センター」※1を市内に1箇所設けるよりも、「子ども110番の家」※2を地域の身近な場所に、たくさん増やすことのほうがより重要である。
- ・各種団体への補助金について、分野ごとに分けて補助するのではなく、一括にまとめて交付し、裁量については、各種団体に委ねる方法を取り入れることも有効である。

※1「地域防犯情報センター」とは、申請により千葉県公安委員会から指定を受けた、自治会などが管理、運営する自主防犯活動施設(自治会などが安全で安心なまちづくりを行うための拠点とする施設)のこと。指定されると、情報提供や技術的助言などの支援を受けることができる。

※2「子ども110番の家」とは、子ども達が危険に遭遇したり、困りごとがあるときに安心して立ち寄れる民家などの民間協力の拠点。

3 グループディスカッション（ワールド・カフェ方式にて）

- ・後半は、高校生や大学生、市内団体や事業者の皆さんによるグループディスカッションを行い、「犯罪のないまちづくり」について意見交換をしました。
- ・ディスカッションについては、昨年に引き続き、「ワールド・カフェ方式」で実施しました。3つの問いについて、問いごとに、メンバーをシャッフルすることで、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やし、議論を活発にする方法です。



- ・テーブルごとにご意見を紹介します。

【テーブル①】

- ・声掛けが大事であり、井戸端会議やゴミだし時の挨拶などちょっとしたところでも心がけていきたい。
- ・自治会について、役職などの役割を与えられると若者がなかなか入らないため、役割を免除するなどの思いやりも大事である。
- ・外に出たくなるようなまちづくりが大事である。
- ・「散歩したくなる街」等のキャッチフレーズにして街路樹整備などを行えば、人の行き来が多くなり、多くの人が街に溢れ、たくさんの目が街に溢れば防犯にもつながる。

【テーブル②】

- ・犯罪を減らすには、多くの目があることが大事であり、パトロールや犬の散歩、井戸端会議、新聞や牛乳配達の方からの情報提供なども大事である。
- ・自治会の強化も重要であり、多世代の意見交換ができるよう、若者が入りやすいきっかけづくりとして、声掛けなど地域での雰囲気作りが大事である。
- ・特別なことを行うのではなく日常生活の中で、例えば犬の散歩や主婦の立ち話などでも防犯はできる。
- ・新聞配達や牛乳配達、宅急便や郵便配達など地域の目を日常の中で高めていくことが大事である。

【テーブル③】

- ・井戸端会議やちょっとした休憩所でのカフェなど、雑談ができる環境を整えることも大事である。
- ・こども110番の家の普及も大事である。
- ・近所との関わり合いについて、朝や夜など少しでも会話をして近所との関わろうとする姿勢が大事である。
- ・講座よりも話し合いの場を設けたほうがよい。
- ・若い世代も何か協力できることはないかと考えているが、どこにどう話をしていいのかわからない。自分達も地域でできることは見つけていかなければならないが、こんな場があるというような情報発信があればと思う。
- ・その地域には見守りの目があるという評判を作ることが大切ではないか。近所の人の声掛け、様々なパトロール、こども110番等々。一つずつの効果は限られているが、何層も見守りがあることは犯罪の抑止力になる。
- ・自分ができることを無理なくやっていくことが大切。いろいろな立場、世代を巻き込む仕組みがあれば、地域の大きな力になっていくのではないか。それが地域から犯罪をなくすことにつながるのではないか。

【テーブル④】

- ・通学路の見守りなどの防犯に向けたパトロールについて、高齢化が進んでいるので、若い人と協力して実施していかないと限界がある。
- ・そもそも若い人は自治会がどのような活動をしているかわからない。意見交換してみても、自治会によって活動自体もまちまちという状況がわかった。
- ・鎌ヶ谷に何も無いのであれば活性化につながるものを作っていけばよいと思う。人の行き来が増えるようブランド化を図ることも大事である。
- ・防犯を意識しないで生活できる街が望ましい。
- ・街路樹を整備して安全で散歩しやすい道路整備をして欲しい。
- ・通学路の危険な場所などを示した防犯マップを作成しようと考えているが、自治会での対応には限界がある。
- ・パトロールをしている人たちを見かけたらお互いに挨拶すれば顔を覚えてもらえ、防犯に役立つ。
- ・自治会からのお知らせは主に回覧板を利用しているが、お父さんやお母さんが簡単に目を通すか、又はまったく見ないで次の家に回すケースもあり、特に子供たちが回覧板を見ることはほとんどないと思われ、そのため若い世代が自治会に無関心になるのではないか。
- ・防犯灯などは自治会が設置しているが、これを知っている市民は少ない。
- ・市民が意識を持つためにも、本日のような話し合いの場を増やしていく必要があると思うし、もっと深い議論ができた方がよい。

【テーブル⑤】

- ・地域で防犯用のぼり旗を作り、目立つ場所に設置して「人が観ているのではないか」という意識を犯罪者に感じさせることが、防犯につながる。
- ・地域で互いを知り合う機会を多くすることが、防犯や防災につながる。
- ・子ども 110 番の家への積極的な参加を地域で促進し、地域での防犯体制を作る。
- ・堅苦しい講習会では、参加しないので、地域での楽しいイベント（花見やバーベキュー）に絡めて、講習も行うとよい。
- ・若い住民を自治会活動・地域活動に引き込むようにすることで、地域が活性化され結果的に防犯につながる。
- ・20歳になった若者を、自治会でお祝いする取り組みがあるとよい。
- ・自分たち若者も、参加できるのであれば自治会活動に参加したい。
- ・若者にも、地域の住民であるという意識を持ってもらえるようにしなければならない。
- ・自分は自転車で走ることが趣味なので、パトロールに活かしていきたい。
- ・「地域の安全は地域で守る」という意識を、地域に住む住民みんなが共有できたら犯罪は減る。

【テーブル⑥】

- ・安全は自分たちの手で守る意識を持つことが大事で、ボランティアや挨拶、声掛けなど自発的な意識が重要である。
- ・ダミーカメラの設置や玄関の明かりを早めにつける、街を常にきれいにすることも防犯につながる。
- ・子どもたちを守るため、通学路などを一緒に歩き、防犯マップを作成（地域の危険個所をリストアップ）して、家庭や学校へ報告し、各世帯にも配布して、防犯意識を高める。
- ・地域に防犯に関する立看板を設置することにより、犯罪の抑止効果につながる。
- ・普段見かけない人がいたら、ひと声かける（犯罪の抑止効果）。
- ・一人で遊んでいたたり、遅くまで遊んでいる子どもには、早期帰宅の声かけをする。
- ・地域で確認した防犯マップ、市から配信される「防犯メール」や警察、防犯協会からの回覧板には、地域で発生した犯罪情報などが掲載されているので、これらを活用して、家族で話し合うことが、家族を守ることにもつながる。
また、近所や友達にも話題にして、地域で情報共有していれば、犯罪者から見た場合、「この地域は防犯意識が高い」と認識され、犯行をあきらめる抑止効果になる。
- ・夕方に、門灯などを早めにつけて、街を明るくする。

【テーブル⑦】

- ・鎌ヶ谷高校では、4月から地域でのあいさつ運動を実施するが、地域の学校として貢献していきたい。
- ・若い人は地域コミュニティや自治会が何をやっているかがわからない。知ってもらう広報や情報伝達は必要である。
- ・自治会含め団体の活性化をしていくには、新たな「若者・外者・ばか者・女性」が必要である。
- ・自治会の参加人数を増やし、1人の負担を少なくすればよい。
- ・特殊詐欺の問題について、特に危機感を持たない人にどう意識を植え付けていくかも大事で、防犯に特化した講習会を組んでも、自分は大丈夫と思っている人は参加しない。そのような人が詐欺にあう。例えば「お花の講座」などの一部に組み込むような形で講習を組めばよい。
- ・若い人が地域の自治会などを知ってもらうきっかけとして、「二十歳の会」や「子どもを巻き込んだ催し」などを地域が企画するのもよい。

【テーブル⑧】

- ・犯罪を防ぐために各種パトロールを実施しているが、パトロールをしている人同士が横のつながりを持ち、情報共有していくことが大事である。
- ・ちょいボランティアとして電球の付け替えなどで、1人1人の意識を高めていくことが大事である。
- ・犬の散歩をしている人に「防犯パトロール」をお願いして、「ワンワンパトロール隊」など、犬の散歩の際に、地域の見守りをお願いする。飼い主或いは犬の首輪に「パトロール中」の表示を行い、通常の散歩の時間をお願いすることで、飼い主の負担も少なく取り組める。
- ・情報共有も大事で、行政や自治会などに知らせていく意識を持つ。
- ・自治会の高齢化について、若者の意識を高める場として、ソフトボール大会やカレーを作るなど、若者に興味を持つ施策を実施していく。

4 全体コメント 千葉大学 法政経学部 准教授 関谷 昇さん

- ・グループディスカッション終了後、基調講演講師の関谷さんより全体へのコメントをいただきました。主な内容は以下のとおりです。

- ・地域の目を育む中で、犬の散歩時など出来るところから始めるという発想は良いと思う。あまり最初にハードルを上げてしまうと、続かなくなってしまう。
- ・防災については、東日本大震災以降、日常的に意識を持つようになったが、防犯も同じで、日常から意識を持つことが大事である。
- ・自治会については、活発なところとそうでないところで分化しているのが実情と思われ、活発でないところには何らかの方法で補完していく必要がある。
- ・自治会については、加入率も下落傾向にあり、その理由の1つとして、世帯単位での加入という構造的な宿命がある。家族単位だと、どうしても若者が入らない形になってしまうため、個人単位での参加の仕組みを構築する必要がある。
また、仕事をしている現役世代の加入も必要で、役割を充てていくというのは、囲い込みの発想であり、今の若者の意識は「やれる時に参加する」ので、囲い込みの発想ではなく、間口を広げて、役割を与えず、やれる時に参加してもらう（月1回くらいがよい）仕組みが大事である。
- ・世代間の意識の差を埋めていくには、お互いの視点や発想をぶつけあう必要があるが、そういう場が少ないのが実情である。
- ・本日のフォーラムは行政が主催であるが、例えば自治会や地域単位でこのようなディスカッションを主催していくことが求められていくと思う。
- ・まちが活性化することは広い意味では、防犯に関係していくと思う。
- ・高齢者には家にこもってしまわないよう楽しみ場の提供、若者にはニーズに適したチャレンジの場などを提供し、色々な人たちが集まることで犯罪を抑制するなどの切り口が考えられる。

5 アンケート結果

- ・当日来場の方にアンケートのご協力いただき、満足度については次のような結果となりました。

項目	回答数	割合 (%)
1 大変よい	25	56.8
2 よい	18	40.9
3 悪い	0	0
4 大変悪い	1	2.3
合計	44	100.0